

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201415		
法人名	株式会社 四季の郷		
事業所名	グループホーム 四季の郷富田		
所在地	四日市市東茂福町4番4号		
自己評価作成日	H22.7.16	評価結果市町村提出日	平成22年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おいしく食事を食べていただけるように、毎日の食事は最も力を入れている。旬のとれたての食材を利用、アンケートの結果をふまえ、ご利用者様のニーズに応じている。地域交流ルーム『サロンきずな』の活用で特別食をレストランに行った気分で食事をしたり特別デザートを喫茶店の雰囲気楽しんでもらう。おばんざい・バーベキュー・お誕生日会などイベントの開催でお腹一杯食べて喜んでもらえるなど笑顔の溢れる施設を目指している。次に四季折々のお花見・散歩・ドライブ・イチゴ狩など外出支援により自然の風を感じてもらおう。ご利用者様の能力に応じて家事の手伝いや他のご利用者様の手助けなど役割をもつことで生きがいを感じてもらおう。自分の家で馴染みの仲間とくつろいで過ごしていただくように心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470201415&SCD=320>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR富田浜駅のすぐ近く、中学校にも隣接している地域社会に恵まれた環境に位置しているデイサービス・有料老人ホームを併設されたグループホームである。地域密着型サービス事業に熱意を持って取り組まれている代表者、高齢者介護・地域福祉経験豊かな施設長や管理者のもと『お元気ですか？笑ってますか？』を合言葉として職員も理念『四季の郷はみんなの「うち」です。』を共有し、ケアの質の均一化の実践に取り組んでいる。明るい建物内には地域にいきづくを目標とし、利用者・家族・地域の方々の交流の場として『サロン きずな』をオープンし、楽しみごとを数多く工夫してして支援している。利用者・職員ともに笑顔の絶えない和やかな、地域密着型を実践している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成22年8月3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理規定・職員訓示(言葉三訓・介護三要・接客五訓)の研修により、意識した介護を日々実践している。朝礼で四季の郷憲章・運営理念を復唱している。	平成22年度の目標としての「地域にいきづく」を大切にしている。地域交流室「サロン『きづな』」を最大限に活用して、管理者・職員は理念を共有し、日々話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、老人会との交流、事業所ホールをギャラリーとして地域に開放し、各種作品展を開催するなど、近隣住民と利用者との集いの場として交流を図っている。	地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担い、婦人会や老人会・自治会と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月『いすず会たより』を配布し認知症の方の生活の情報提供を掲載している。ホームページにより活動内容を紹介している。地域の方の認知症に対する相談に快く応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に運営推進会議を開催しサービス向上の取り組みを実施している。有識者・ご家族代表に加えて、市の介護高齢福祉課担当者・市の相談員・ボランティアの方々にも出席していただくようになり充実してきている。	直近の運営推進会議では富田地区市民センター館長・介護相談員・家族など10名の方が参加され、2ヶ月間の報告や職員アンケート報告など現在取り組んでいる内容を説明して話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月発行の『いすず会たより』を市担当者や地域包括支援センターに届け現状報告や意見交換を行っている。また市の相談員の訪問を月に1回受け、利用者の要望や不満の抽出にあたってもらいアドバイスを受けている。	四日市市介護高齢福祉課へは安全センサーやスプリンクラーの件などで現場の実情を伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。四日市市介護相談員の訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施により身体拘束の具体的な行為を理解している。緊急やむを得ない拘束はケース会議で検討し、ご家族に了解を得る。	身体拘束マニュアルを作成し研修を行っている。代表者・全ての職員が身体拘束内容とその弊害を理解しており、身体拘束・言葉の拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の実施。虐待の対応として、虐待の種類を理解し早期発見でやむを得ない措置を図る。法律上の虐待を研修し予防を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修により制度について学ぶ機会を設けている。また、講習・研修の案内を掲示板に掲示し希望者を募っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は診療情報提供書、面接(看護師同席)により判定会議を行い検討している。料金の内訳は契約時に十分説明し資料を渡し了解を得ている。退去する際には利用者やご家族に十分な説明を行い過程・決定が明確である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員が来訪し情報交換を積極的に行い、相談員の言葉を受け止め対応している。アンケートを実施し要望を今後のサービス向上につなげている。	地域交流ルーム『サロン きずな』を活用し、イベント時や食事会など利用者と家族が、意見や要望を言いやすい場面や雰囲気作りに留意して支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度リーダーを交えた品質管理会議を実施し現場の意見を反映している。また投票箱を設置し言いにくい意見も言えるような環境作りに努めている。	四季の郷のリーダーが月に1回品質管理会議を開催し、そこから出た意見を運営に反映させている。また従業員満足『意見箱』を設置し、スタッフの生の声を聞きだすように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・人事評価を実施し、能力実績を昇給などに反映して意識向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には新人研修を実施し施設理念、業務の全体像の理解を図る。外部研修後はレポート提出により伝達講習を行い全体の周知を図っている。内部研修を毎月テーマを決めて実施し職員の専門性向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・県それぞれのグループホーム連絡協議会に所属し相互訪問による活動や勉強会、見学会などの交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者にはデイサービスや体験お泊りを利用して頂き話を聴く機会を設けている。その際、利用状態をみて、客観的にも本人の要望などを知るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすい環境作りをし、話を聴く機会を十分に設け、ご家族の意向を親身に受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門的な知識向上に常に努め広い視野をもち、一人ひとりが必要としているサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	和気藹々とした雰囲気の中で過ごす中で職員は昔ながらの知恵を利用者から教えてもらうなど毎日の生活の中で横のつながりを意識した『共に過ごし支えあう関係』を作っている。認知症の進行により日常会話も困難なこともあり、出来る事は共に行き会話を持つようこころがけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	午前7時から午後9時の間はいつでも面会していただけるようにしている。また遠方からの面会の場合は居室内に宿泊していただけるスペースは十分あるので簡易ベッドの貸し出しを行っている。また、ご家族と一緒に食事をしながら交流が図れる場を設けた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内には今まで使用してきた馴染みの家具を持ってきていただき使用している。また、個人的好みによる道具や飾り等を置いている。地域交流室で食事を共にして絆を深めている。	デイサービス利用している知人の訪問や馴染みのお店での買い物や踊りや花見など、利用者本人が希望することは関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がすぐに手助けするのではなく見守りということを大切にしていくことで本人同士が出来ない部分を補い合い自然に支えあっている。馴染めない方には、その人が気の合いそうな方の近くに席を誘導するなどの配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を実施し、今後に向けて相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートへの記帳と日々の会話の中で希望や意向を把握し、本人本位に生活が送れるように支援している。	利用者に寄り添い、生活記録日誌などで、希望や意向の把握に努めているが、個々の生活暦を記載するチームでの共通・共有シートなどはまだ作成されていない。	利用者一人ひとりの生活暦などを記載する使いやすいシート(センター方式など)1枚からの活用も期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦や生活環境を把握して個別ケアや個別リハビリ等に心がけている。レクリエーション等を生かし主役になれる場面作りの支援をしている。(習字・生け花・おやつ作り等)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全ての介護職員は日勤だけでなく夜勤も行うことで現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は3ヶ月毎に見直しを行い、ご家族にも同意を得ている。変化のあったときには速やかにご家族と連絡をとり話し合いをしている。	利用者・家族・関係者から意見を聞き、アイデアを出し合って現状に即した介護計画を3ヶ月ごとに作成し、家族の同意も得ている。状態に変化のあった場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録を記入している。一か月分の個別記録はすぐに見れるところに保管しているので職員は情報を共有できている。また、ケース会議を開催し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や理美容院への送迎など利用者やご家族の状況に応じて外出支援などの柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の色々なボランティアの方々に来て頂き一緒に楽しい時間を過ごせるように支援している。消防の方に協力して頂き定期的に避難訓練を実施している。民生委員さんに施設を理解していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医療機関と複数契約しておりご家族やご本人の意向に沿って納得の得られたかかりつけ医を決定している。ご家族による受診同行を原則としているが希望があれば通院支援をしている。必要に応じて往診もしていただいている。	利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診の支援を行っている。近隣の複数の医療機関と契約し、往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置している。医療的なことは看護師と介護職員が連携し支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化に戸惑いがないように職員は病院へ交代でお見舞いに行く。退院時には病院とのケアカンファレンスを行い、退院に向けて準備する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針を作成しご家族への説明同意を得ている。医療との連携をはかり受診・往診で対応している。緊急マニュアルを作成、周知し24時間、医師と連絡がとれるようにしている。入院した場合、2ヶ月は入居継続としている。	『グループホーム 四季の郷 富田 重度化した場合の対応にかかる指針』を作成し、考え方や具体的な支援内容などを家族と早い段階から話し合っている。また医療機関との連携もはかり、24時間医師と連絡が可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の方に来て頂き、心肺蘇生法など緊急時に備えた講習を開いている。またAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年4回定期的に防災避難訓練や消防署と連携した避難訓練を実施し、避難方法を身につけている。また、地域の方々の協力依頼もしている。	年4回の防災避難訓練や夜間想定訓練・救命救急訓練を行っている。地域との協力体制も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営規定に職員の秘密保持に関しての規定があり朝礼やミーティング等で言葉使いなどプライバシー保護の具体的項目について意識の徹底を図っている。また年間目標に言葉使い等を標語にして対応している。	利用者一人ひとりの性格を把握して、接し方や話し方・言葉づかいに気をつけて、プライバシーの確保をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主観的事実を尊重し、一人ひとりが伝えたい事を受け止め十分に話を聴き本人が分かるように伝え納得しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが一人ひとりの体調や精神面を把握し、その時の本人の希望を尊重して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に応じ理容店へ送迎するなどの支援をしている。また定期的に職員が本人の希望でヘアーカットをしている。週に一度ダンス内の整理整頓を行い季節にあった衣服を着用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特別昼食・特別デザート等、季節感のある旬なメニューを提供している。自家生産の旬な野菜の提供、昼食の選択メニュー、おやつ作り、おぼんざいなど食事を楽しむ支援を行っている。また食後の嗜好飲料も提供している。	四季の郷食堂でのバイキングや喫茶『サロンきつな』などで、楽しい雰囲気での食事を工夫して支援している。代表の農園で採れた新鮮な野菜も食卓に並び利用者の楽しみごとになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常勤の栄養士を配置し献立を作成している。摂取記録はその都度、記録しその人に合わせた食事量を提供している。水分は毎食事時、10時、15時にお茶を出し、水分確保に努めている。必要に応じて水分摂取量を測定する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前の整容時に歯みがきの声かけ、また見守りにて洗浄液につける。昼食後は居室での歯みがきの声かけ、誘導にて行っている。また、毎日、口腔体操・食前体操を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、場面が変わる時等にトイレの時間をもつように声かえをする。また、失禁のある利用者には時間や動きを見ながらトイレ誘導をしている。	出来るだけトイレで気持ちよく排泄してもらえるように、一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かした支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートをつけ、その人の排便習慣を把握するように心がけている。毎日、皆で体操を行い身体を動かしている。また気候の良い時には散歩をしている。食後はトイレ誘導を行い排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の午前中入浴となっている。利用者の要望・体調に合わせて個別で入浴を実施している。他の時間帯での入浴希望者はないが希望があれば希望に沿うように努める。	一人ひとりの希望を大切にして、週3回の入浴支援を行っている。デイサービスの機械浴や随時のシャワー浴など個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方がいるときには十分に話を聴いたり、傍にいて安心して環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を作成し、いつでも見れる場所に保管している。主治医・看護師と連携して体調・症状に応じて服薬支援を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ・テーブル拭き・お膳拭き等、一人ひとりが得意とされることをみつけ主役となる場面作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設の周囲1kmの散歩が日常の日課となっている。レクリエーションの一環として四季を感じる外出を設けている。(初詣・お花見・公園の散歩・ドライブ・外食・買い物等)	利用者一人ひとりのその日の希望にそって日常的に戸外へ出かける支援をしている。(近隣のJRの駅や中学校までの散歩コースもあり、利用者の楽しみになっている。)四季折々のお花見やイベントなど本人の有する力や習慣に応じて戸外へかけることも積極的に行っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は認知症の進行度合いにより支援方法を変えている。立替払いで買い物支援を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じているが認知症の進行の度合いやその時々々の精神状態によって支援を変えている。(ご家族の意向と利用者の要望を調整して支援している。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や共有空間に季節に応じた手作りカレンダーや壁飾りを飾り、居心地よく過ごせるような雰囲気作りをしている。デイサービスリビングの共有空間やテラスに自由に入出入りできるようにしている。また温度チェックを行い室温管理している。	ウッドデッキを有した共有スペースは季節の花が飾られ、ゆったりとした安らぎの空間になっている、利用者一人ひとりが思いおmoiの場所で居心地良く過ごせる工夫が随所にみられ、職員の声もとても穏やかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや機械マッサージを設置している。テラスには自由に入出入りできるようにしている。相談室には絵や写真などを展示し、くつろげる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるまで使用されていた馴染みのある家具を置くなどして混乱防止に努め本人とご家族の好みに応じて居心地よく過ごせる部屋作りをしている。また臭いの気になる部屋には消臭機を設置している。	広い居室には清潔な洗面台が利便性とプライバシーを重視して設置してある。利用者一人ひとりの馴染みのテーブルや椅子を置き、本人や家族が居心地よく過ごせる配慮や工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生け花・茶道・カラオケ・掃除・洗濯物たたみなど主人公になる場面作りを心がけている。脳トレーニングを実施している。バリアフリーで建物内部を自由に行き来できる広い空間を提供している。		